

近藤 貞彦 (コンドウ サダヒコ)

住江織物株式会社社長



独自消臭技術「トリプルフレッシュ」を 全事業領域に展開

◆事業領域ごとに分社化を図る

当社は1883年に創業し、鉄道内装資材、国会議事堂を含めた官需を中心にカーペット・ファブリックの国内生産を開始した。その後、ホテルやオフィス等の内装に販路を広げ、ホームユースを含むインテリア内装材をトータルに提案できる会社へ成長した。また、戦後間もない1954年に、現在でもコレクターの間で人気の高い、国産軽自動車の草分け「フライング・フェザー」を当社の子会社であった住江製作所で製造・販売、そのころから自動車内装材の生産を開始している。現在ではインテリア事業と自動車・車両内装事業が収益の大きな柱となっている。

現在、事業部制を更に展開させ、事業領域ごとに分社化を図っている。主なグループ会社として、インテリア関連では、カーテン、カーペットの販売を行っている㈱スミノエ、壁装材の販売を行っているルノン㈱がある。丹後テクスタイル㈱は、京都の網野地区で緞通や緞帳の生産を行っている子会社である。住江奈良㈱は奈良工場・床材事業部門を分社独立させた生産子会社で、昨年9月に設立した。小松住江テック㈱は自動車内装材の基幹工場で、小松精練㈱との合併により2003年に設立した。海外市場ではグローバル化を加速させ、2004年6月から稼働開始した、北米日系自動車メーカー向け製造販売拠点Suminoe Textile of America (STA)をはじめ、中国の蘇州住江小出汽車用品有限公司、蘇州住江織物有限公司、タイのT.C.H.Suminoe、インドネシアのPT.Sinar Suminoe Indonesiaの計5社を展開している。

このように、一昨年、昨年で海外4社、国内3社を立ち上げたことにより、当期においては機械・設備等の先行費用が発生し、4億円の創業損を見込んでいる。一方、インテリア事業関連が一時的苦戦から着実に立ち直り2年前から収益化が進み、住江グループ全体の連結業績では、グローバル化による先行費用をカバーできると判断している。

◆自動車・車両事業を軸に住江グループの総合力を高める

平成17年5月期中間連結業績は、売上高が346億40百万円（前年同期比99.4%）、営業利益は4億84百万円、経常利益は計画の6億円を上回り、7億13百万円（同150.8%）に改善した。当期中間純利益については前年同期を若干上回り、4億77百万円となっている。

中間連結売上高の品種別内訳では、カーペットが全売上高の40%を占め、ホームユース、オフィスビル、ホテルをはじめ自動車用カーペット、家電のホットカーペット等が含まれている。カーテンや自動車内装シート、車両・航空機用資材等が含まれるドレープが全売上高の39%、自動車用・車両用モケットが6%を占めている。新規事業の非塩ビ・オレフィン系硬質床材やトリプルフレッシュ薬剤、ペットボトルを再利用した再生繊維スミトロン等が含まれるその他の品種は15%を占めている。事業部門別ではインテリア事業が57%（196億円）、自動車・車両内装資材事業が42%（147億円）、その他事業が1%（3億円）となっている。将来的には自動車・車両に関する事業分野が拡大していくとみており、特に米国に設立した自動車内装材製造子会社STAでの売上高が3年後には50億円になると予想している。インテリア事業については、“スミノエブランド”の浸透に努め、着実に収益率を上げていく考えである。

単独業績は、昨年9月に床材事業部門を分離したため、売上高は前年同期より若干下回り、258億67百万円となった。経常利益は5億98百万円、当期純利益は4億89百万円となっている。営業利益は、先行費用の投入、歩留まりの劣化等の要因により2億83百万円という結果になった。

連結業績の通期見通しについては、売上高695億円、経常利益11億円、当期利益11億円、単独については、売上高480億円、経常利益11億円、当期利益11億円を見込んでいる。

◆消臭技術「トリプルフレッシュ」を全事業領域に展開

当社は、心安らく快適空間の提供を基本テーマに、環境対応型商品の開発に努め、6年前から独自の消臭技

術「トリプルフレッシュ」を各品種に展開させている。当初は年商10億円程度であったが、シックハウス症候群やVOC対策の法規制等を背景に、カーペットやカーテンを中心としたホームユース市場で採用が急ピッチに進み、トリプルフレッシュを含む環境対応商品の売上高は年商80億円まで成長している。現在ではカーペット、カーテンだけでなく壁装、ふすま紙、更に自動車内装資材、車両用資材等でトリプルフレッシュ加工を施した商品が開発されており、どの事業分野でも中心となる付加価値商品として販売を行っている。

また海外への加工技術・薬剤の供給も行っており、既に米国、ドイツに実績がある。新たな市場への展開としては、大手家電メーカーの最新型冷蔵庫に採用された人工酵素による消臭フィルターがある。そして現在、トリプルフレッシュを更に進化させ、光触媒を当社独自の方法で複合付与し、VOC対策を強化させた第4世代消臭技術を完成させた。

◆「OH TILE（オータイル）」を海外輸出

非塩ビ・オレフィン系硬質床材「OH TILE（オータイル）」について、米国の大手床材メーカーに商品供給を開始した。初年度は50百万円からスタートし、2年間で3億円を北米に輸出する計画である。国内では、環境対応型商品としてその性能を評価され、多摩都市モノレール等の交通機関に長尺タイプの「OH シートS（オーシートエス）」が採用されている。

◆米国自動車内装材生産会社STA納入開始

米国の生産子会社STAは、昨年6月に竣工式を終え、本格的に生産をスタートした。日系自動車メーカー向けに自動車用カーペット・内装シートを生産しており、既に商品納入を開始している。さらに、今年からトヨタ、ホンダ量産車向けの受注が決まっており、新たにカーペットの製造設備を増設（設備投資額2億円）、7月からの本格納入に向け準備している。STAの売上高は2005年3月で350万米ドルであるが、2006年は250万米ドル、2007年は400万米ドル、2008年には500万米ドルと拡大する見込みである。

◆サイドカーテン・エアバッグ製造会社3月より操業開始へ

昨年、住友商事(株)、旭化成せんい(株)との合併で、サイドカーテン・エアバッグの製造会社を設立した。資本金は15億円、当社の出資比率は33.4%で、生産を受け持っている。米国では2009年から法規制の予定で、現在急ピッチでサイドカーテン・エアバッグの搭載が進んでおり、国内でもトヨタ、日産、ホンダ等で採用されると思われるので、需要拡大は確実だとみている。現在、長崎県松浦市に生産工場を建設中であり、本年3月より一部操業を開始する予定である。

(平成17年2月1日・大阪)

(平成17年2月2日・東京)